

令和2年度岩手県立博物館協議会における主な意見・要望とその対応状況

R4.1.18 現在

【令和2年度博物館協議会（令和3年1月26日開催）】

主な意見要望等	対応状況等
①科学研究費助成事業について	
<p>科学研究費助成事業に採択されたものについては、成果を展示等に生かして行くことを期待する。断片的でもいいので紹介して、博物館の科研費事業をアピールして行かれない。</p>	<p>【回答】 科研費助成事業は、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため全く進展せず、ようやく今年度から野外での鳥類越冬調査が始まった。来年度の調査が終了した後に、トピック展や日曜講座などで活動や成果を紹介したい。</p>
②文化財レスキュー事業について	
<p>文化財レスキューの事業は、これから単年度事業ということであるが、万が一国の補助がなくなったときに継続していくのかどうか、方針はどうか。</p>	<p>（当日回答）陸前高田市の事業を当館が受託して進めている事業である。当初は10年の予定であったが、確立された技術がなく、資料の傷み具合等もそれぞれであり、想定以上に進んでいない、かなりの数が残っているというのが現状である。</p>
<p>関連して、陸前高田市の被災資料は紙だけでなくあると思うが、その規模感、全体の状況を教えてほしい。</p>	<p>（当日回答）貴重な資料であり、放置できないと考えており、国に要望して3年度は予算がついた。今後の方針は未定だが、陸前高田市と協力して継続を訴えていく。継続しないことは想定していないが、もしそうなったら何らかの対応が必要ということで検討していく。</p> <p>約46万点のうち半分が残っている。しかも処理が難しいものがある。</p> <p>このコロナ禍で、さらに厳しい状況になっている。もう10年やりましたよね、ということにならないよう色々なところをお願いして、何とか継続していきたいと思っている。</p>

③写真コンテストについて	
<p>写真コンテストは、県外からも応募できるのか。岩手に来たくても来れない人も応募できるように、広く全国から募ったらと思う。スマホから応募できるか。</p>	<p>(当日回答) 技術を競うのではなく、スマホでも何で撮ってもいいとしている。</p> <p>ただ、A4に印刷してもらって送ってもらうこととしている。データだけ送ってもらうととても時間的にも無理なので。</p> <p>用紙は何でもいいし、形式ばったものにはしたくない。「今日はきれいだな」と写真を撮って、誰に送ってもらってもいいし、全世界からの応募を受け付けている。</p> <p>エピソードとか、コメントも書いてもらうことにしている。</p>
④40周年記念特別展について	
<p>特別展を3年度にあらためて実施するというところで、1年遅れたが、その間に動いたもので活用できるものは活用した方がよい。</p> <p>環境省だと「みちのく潮風トレイル」やジオパーク関連があるが、震災10年を機に各省庁の事業でも色々あると思う。誰でも利用したりできるものがあるので、県博に来た人がそれぞれの事業があることが分かるように整理する、まとめるというのではと思う。</p> <p>また、道路事業の関係で縄文や弥生時代の新しい発見があったのではと思うので、それらを宣伝して、次の「教科書と違う岩手の歴史」展につなげてリピーターを獲得するような工夫もできるかなと思う。</p>	<p>(当日回答) 「教科書と違う岩手の歴史」展の関連で、三陸沿岸道工事であった弥生時代の新しい発見については、展示に取り込んでいる。</p> <p>特別展については、新しい情報を取り込めるものは取り込んでいきたい。</p> <p>また、トンネルを掘った際に出てきた石を、地質部門でトピック展として紹介したりしている。</p> <p>40周年特別展に向けてのプランBについてであるが、状況を見ながらということである。借受について難しくなる場合もあるかと思うので、コロナの感染拡大次第では、展示資料を減じざるを得ない状況もあるかもしれない。これから詰めていきたい。</p>
⑤博学連携について	
<p>高校の現場から、バックヤードツアーがないのは非常に残念。高校生のうち一定数は美術館や会館、動物園、博物館等がどのような職業か知りがっている。バックヤードツアーは毎年5月か6月に、年に一度行われているが、5月は高校生が非常に忙しく、土日は大概忙しい。コロナのこともあるので、今ぐらいの時期や、希望者を募って見せていただいたり、学芸員が何をしているかとい</p>	<p>(当日回答) 今年もある高校の、学芸員をやってみたいという高校生の方が来て、当館の学芸員が対応した。館内を巡って歩くということを実際に行っている。大々的に募って行くことはないが、お話があれば対応させていただいている。</p> <p>つけ加えると、昨年大学生の研修会に高校生の母親から電話があり、将来学芸員になりたいので参加できないかという旨を伝えられ、参加しても</p>

<p>たキャリア教育みたいなものを、高校の現場と協力してうまく組み立てられないか。</p>	<p>らった。その時のことを小論文に書いて提出し、大学に合格した。連絡していただければ、そのような研修会にも参加してもらえるかと思う。</p> <p>【回答】 常設展示資料について、展示資料目録の更新を進めている。目次を新たに加え、また表記にも統一性を持たせるなど、より検索しやすいように改良している。広く利用していただけるような目録を目指したい。また学習指導要領の改訂に伴い、主に小～高校の社会・理科の各単元に対応した資料目録を作成している。博物館資料の授業等での活用を促すため、博物館からの教材の提案とした位置付けにしたい。</p>
<p>⑥インターネット・デジタル技術の導入について</p>	
<p>コロナ対応についてあるが、オンラインのシステムを入れるとか、館のWi-Fi環境とかはどのようになっているか。オンラインを導入する動きがあるか、教えていただきたい。 環境改善の話は出ていないのか。 その活用を進められたい。</p>	<p>(当日回答) Wi-Fi環境はあまりよくない状況である。環境はさらに改善が必要と考えている。それ以外で、「ポケット学芸員」という展示物の解説をスマホで見たり聞いたりできるアプリを、当館で早い時期に導入している。 全国的に導入が進んでいるかと言えばそうではないが、当館の取組は早い方だと思う。</p>
<p>新しい内閣ではデジタル重視が言われていたと思うが、やはりインターネット、デジタル、遠隔対応等が今後求められると思う。 前年より一歩ずつ進めていただきたい。 また、3密を避けるとか、これからは色々今までのやり方が変わってくると思われるが、どういう準備をするか。 大人数の受入れはコロナ対策に苦慮すると思うが、大きな団体の受入れが少なくなっても、5人でも10人でも興味をもった子供たちが来館し、しかし頻繁に来てもらうような仕組みを何とか作れないものか。 ウィズコロナで発想を転換して、きめ細かな「コ</p>	<p>(当日回答) 昨年「操り人形展」の際に、倉沢人形歌舞伎を講堂で実施する際、事前予約で少なめの人数で募集した。当方からお願いして許可を貰って映像を撮らせていただき、展示期間中、ホームページからユーチューブで動画を見られるようにした。 当日は、講堂だけでなく館内ではあるが2か所に映像を飛ばして見ていただいた。 初の試みだったがまずはうまくいったので、今後は、特別展やテーマ展以外にも、それぞれの場所でやっているトピック展の模様をホームページで見られるようにやって行こうかと考えている。</p>

<p>ロナの中での博物館」を考えていくこと。繰り返しになるが、インターネット、デジタル技術の活用も一つの方向と考えるので、取り組んでいただくことを希望する。</p>	<p>【回答】 先ごろ、県のコロナ対策用補助金により、大型モニター2台とビデオカメラ1台が納入された。これらの活用については、十分に館内で議論を重ね、有効な取り組みを考えていきたい。</p>
<p>デジタル化導入等大学でもあるのだが、コロナを受けて各省庁が各種補助事業を始めており、博物館で使えるものがあれば積極的に利用するのはどうかと思う。</p> <p>博物館内の様子をスマホだけでなく自宅で見られれば、博物館に足を運んでみようかということも増えるのではないか。</p> <p>動画配信を見たりするとかで、来館のきっかけになることもあるのではないか。</p>	
<p>⑦調査研究について</p>	
<p>調査研究については毎年、触れることとしている。徐々に環境整備が進められていると思うが、学芸員が今後とも研究しやすい、業績を出しやすい、それが館の業績となり、博物館の看板の元に輝くような研究環境の整備を今後とも進めていただきたい。</p>	<p>【回答】 厳しい財政状況にあるが、学芸員の調査研究費の確保を続けてきており、今後とも環境整備に努めて参りたい。</p>
<p>⑧新型コロナ禍での事業運営について</p>	
<p>今年度に予定していた事業が、コロナの影響で中止になったり休館をしたりなど様々あり、入館者数が減っているという報告であった。来年度事業の計画では、今年度できなかったものをそのまま引き継いでいる。コロナが収束すれば開催できると思いながらも、まだ先の見えない中で、ものによっては来年度の段階では状況をよく見ながら、できないものを早めにやめることも必要だと感じた。</p> <p>自分自身も学校現場でコロナ禍における行事のあり方について判断が迫られることもあった。しかし、発達段階ではやらなければいけない行事や</p>	<p>(当日回答) 具体的なところはまだ計画検討中である。先ほどのお話はその通りだと思う。コロナの状況はいずれ劇的に改善することは想定できない。今現在、来年度の事業計画において今年度ベースで考えており、同時平行でコロナを意識した別の実施方法を学芸員の方で考えている。</p> <p>一方で、博物館の収蔵品について、寄贈希望の方が多くおり、貴重な財産を預かっている状況。そういったものをこの機会を通じて見ていただくことは大きい。展示替えやスペースを活用した見せ方など検討したい。一人でも多くのお客様が博物館で楽しく学んだということにつながれば良</p>

体験もあるため、成長の過程にひずみがかかることも考えた。そういったことも踏まえて事業を考えた際に、今年度で中止した事業は、人と関わるものや、密な状態での体験学習や講演会などであったと思う。来年度においても、中止の判断を早めに行うとすれば、博物館のもっているものを生かし、展示に力を入れるなどして、シフトチェンジすることも必要ではないのか。

学校等では博物館の見学希望が増えている。また、修学旅行も県内という学校が増え、地元の施設を見たいという希望が増えている。体験ができないとなれば展示を見て歩く。どのような展示があるのか知らない子供たちも多い。岩手にはこんなものがある、ということを改めて示す展示があるとよいのでは。

今はグループで話し合うことをあまりさせていない。自分でメモをとったり考えたりするのであれば、学習の場として博物館の展示は大きい。目玉になる展示があると飛びついてくるのでは。美術館で東山魁夷の展示をした際は多くのお客様が来たと聞いている。展示で惹きつけることをもう一度考えてみてはどうか。

また、博物館個々の部屋を使う方法と出前の博物館として、県内で企画展を行い、地元の子供や人々を集めることが可能ではないか。体験的なことをさせたいができないため、それを避けるためには、ある程度の空間の中で人数制限されながらも、見学をするということがベストだと思われる。そういう形で来年度の事業を考えることができるのではないかと思い、話をさせていただいた。それがすべて良い悪いではなく、入館者や岩手の財産を多くの人達に見てもらうにはどうしたらよいか、ということで話をさせてもらった。

博物館の人々は日々頭を悩ませて、どうすれば実施できるのか検討しているかと思うが、今年度中止になったものも多くあったが、来年度実施に向けて前向きな計画になっているものがあれば紹介してほしい。

い。それを基本に令和3年度の事業を考えていきたい。

去年の今頃を考えれば影響は限られていると思っていたが、去年より今の方が非常に厳しい。二通り考えていかなければいけないが、やはり沿岸の方々から「残念だった」、「楽しみにしていた」と言われると、なんとかしてやりたいという気持ちがある。

たぶん菅総理と同じように、なんとかオリンピックをやりたいと思うのと同じように、それに担当した学芸員もかなり熱をいれてやってきたため、変えながらやっていくこともあると思うが、どうしてもその場合はそれぞれ良い方向に変えざるを得ないかと思っている。できるだけやりたい、なんとかできないかなと考えている。

⑨トピック展等について

トピック展について資料に載ってないが、毎月一度は見に来ているがなかなか面白い展示で、小さいコーナーながら見てほしいということをアピールするような企画である。それを資料に載せてもよいのではないか。

化石の水族館ではとても工夫されており、操り人形の際は人気投票なども行っていた。もう少しアピールしてもよいのでは。ツイッターをせっかくやっているのにヒントが少ない。もう少し周知してフォローしてもらえそうな工夫をした方がよいのでは。

今博物館では、コロナに関連する資料を一般の方からも収集していると思うが、その活動についても記載してよいのでは。これから続くものであり続けてほしい。何年か後に「コロナと博物館」といったテーマになると思う。いい取り組みだと思うのでツイッター等でアピールして良いことだと思う。岩手日報などで取り上げていただくのもいいと思う。

(当日回答) 先ほど話が出たようにトピック展に関しても、専門分野ごとに、または学芸員の研究している分野ごとに、例えばコロナ関連について新聞で取り上げてもらったが、その他にも動物の毛皮、ゴジラ鉄瓶の借受け展示等は、子どもにも喜ばれた。

地質観察会、自然観察会も希望が多いので、少し規模を縮小して実施した。

新聞などを見て、これいいなと思ったら、借りてきて展示して皆で喜んでもらおうと。私は、昨日のことは全部「博物」という風に言って、そのように話している。

是非、色々なアイデアがあれば、館に寄せていただきたい。

【回答】「2～3年度(12月まで)に実施した主なトピック展等の一覧」は別紙のとおり。